

紀伊半島大水害の被害状況及び救援・支援活動状況(全体概要)

I 主な被害・避難等の状況

- ◆ 過去に例のない大雨
上北山村では、平成23年8月30日～9月4日の5日間で **2,436mm**の総降水量を記録
- ◆ 大規模な土砂災害の集中発生
奈良県、和歌山県、三重県の全体崩壊土砂量は、**約1億m³**（東京ドームの約80倍）
うち、奈良県は **8,600万m³**（全体の約9割）
大規模なものだけでも **39箇所**、県内全体では **約1,800箇所**の土砂崩れが発生
- ◆ 土砂ダムの形成
土砂崩れにより、河道閉塞が県内で**16箇所**発生
うち、**五條市大塔町赤谷、野迫川村北股、十津川村長殿、十津川村栗平**の4箇所は全閉塞状態で、土砂ダムが形成された



被害の状況 (H29.7.21現在)

死者 **15名**（五條市8名、天川村1名、十津川村6名） 行方不明者 **9名**（五條市3名、十津川村6名）
負傷者 **6名**（五條市2名、天川村1名、十津川村3名）
（五條市大塔町宇井地区）

避難の状況

平成26年12月26日をもって、避難者の避難所生活が全て解消

ピーク時(平成23年9月5日11:00時点) 避難所 52箇所 避難世帯数 359世帯 避難者数 938名

警戒区域の設定状況 (災害対策基本法第63条に基づく)

平成24年2月8日8:30をもって、全て解除

設定当初 五條市大塔町赤谷 3世帯4名、清水 9世帯19名、宇井 39世帯71名
(平成23年9月16日17:00時点) 野迫川村北股 37世帯87名
十津川村長殿 14世帯21名、宇宮原 15世帯33名、上野地 17世帯32名 (県内合計 7地区134世帯267名)

避難指示・勧告等の状況

平成26年12月26日7:00をもって、全て解除

ピーク時(平成23年9月5日5:00時点) 避難指示 729世帯1,629名 避難勧告 3,225世帯7,145名 自主避難 139世帯247名

II 主な救援・支援活動状況

- ◆ 災害対策本部の設置
昭和57年以来、29年ぶりに奈良県災害対策本部を設置(平成23年9月4日～平成26年12月25日)
県内14市町村においても災害対策本部が設置(全て廃止)

自衛隊の災害派遣

平成23年9月4日～10月14日 (41日間)
人員 延べ**11,212名**
車両 延べ **4,470台**
行方不明者の捜索、救助活動、道路啓開、給水活動、
ヘリコプターによる人員・物資搬送 等

警察の活動

人員 延べ約**4,300名**
警察ヘリ等による被害状況のは握、
行方不明者の捜索活動、
二次被害防止のための警戒活動、
安全・安心確保のための警戒活動 等

県内消防職団員及び奈良県消防防災ヘリの活動

県内消防職団員の活動
人員 延べ約**7,700名** (平成23年9月末時点)
※奈良県消防広域相互応援協定に基づく活動を含む
行方不明者の捜索 等
奈良県消防防災ヘリの活動
人員・物資搬送、上空からの被害状況調査 等

国及び応援県等による支援活動

国土交通省 連絡調整員、TEC-FORCEの派遣
林野庁 連絡調整員、森林土木専門官の派遣
近畿農政局 連絡調整員の派遣
福井県 消防防災ヘリによる救援物資輸送
土木技師の派遣
関西広域連合 土木技師の派遣

奈良県医療救護班の活動

平成23年9月4日 五條市へDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣
以降、医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、薬剤師等を五條市、野迫川村、十津川村の避難所等に派遣し、診療、健康診断、健康相談等を実施

応急仮設住宅の建設

五條市 **57戸**、野迫川村 **27戸**、十津川村 **30戸** (県内合計 **114戸**) を建設



(野迫川村北股地区 応急仮設住宅)

その他の活動等

- ・日本赤十字社奈良県支部 救援物資の配布
- ・社団法人奈良県トラック協会 救援物資の輸送
- ・県職員の派遣 連絡調整員(リエゾン)、農業土木技術職員
十津川村現地災害対策本部員 等
- ・奈良県社会福祉協議会と奈良県災害ボランティア本部を共同設置

- ・県内10市町村に災害救助法を適用
- ・県内4市村に被災者生活再建支援法を適用
- ・台風12号災害復旧対策資金を創設
- ・全国の個人・団体から見舞金(寄附金)・義援金の受け付け
見舞金 45,796,572円、義援金 384,957,396円
- ・奈良県紀伊半島大水害復旧・復興推進本部を設置
(平成23年10月7日)